

# 小田原

広

報

まちづくり情報誌

1999 11月号  
11/1

平成11年11月1日発行  
No.758



特集 おだわらのいっころ

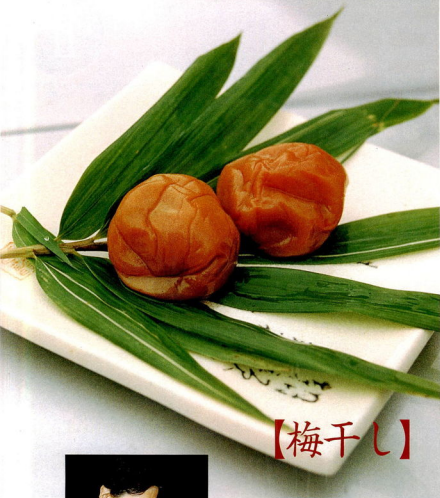
「いつの世にも受け継がれる」「いっころ」がある。

# 究極の味わいを求めて

## 曾我の梅は守っていかなきやね

平成10年度小田原梅干コンクール

神奈川県知事賞受賞者 種坂すみ子さん



【梅干し】

毎年作っても  
同じ味には  
ならないんだよね



「すくに行くからちよつと待ってね。今、梅の剪定をしているのよ。結構大変な作業だね」種坂さんが梅林の中から出てきた。額には玉のような汗が光っていた。目の前に少なくて見積っても100本以上は優にありう梅の木が広がっていた。

梅干しが広まったのは鎌倉時代になってから。神僧が好んで食べ、それを武家がまねたのが始まりといわれる。小田原の梅干しは、北条早雲がその薬効と腐敗を防ぐ作用に着目し、梅干し作りを奨励したことから広まった。

「曾我の梅は本当においしいよ。それに体にもいいね。最近では、梅干しががんにも効くなんて話を聞いたよ」と、種坂さんは笑って言った。目の前には、樽にぎっしり入った梅干しがあった。昨年、県知事賞を取った梅干しだ。見るからにおいしそうだった。果肉は厚く、皮がきめ細かい。

「梅干しには十郎梅がいいんだよ。でも、毎年作っても、同じ味にはならないんだよね」氣候によって梅の味が微妙に違ってしまいうらしい。種坂さんが、樽から梅干しを取り出してしげしげと眺めながら言った。「この家に嫁いできたとき、朝早くから夜遅くまで毎日忙しく、これは大変なところに嫁いできたと思っただよ。」人手を頼むとお金もかかるし、手伝いの人が帰った後でも、梅干しづくりは、結構やることがあるそうだ。

「でも、苦労はしていないよ。曾我の人は皆親切だし、家族にも恵まれた。私の人生はずっと梅だったから梅がなければ生活もできない。死ぬまで梅干し作っていくんじゃないかな」と種坂さんは笑った。本物の笑顔だった。よかった。これからは、種坂さんの梅干しは、ずっと食べられそうだ。

「曾我の梅はずっと守っていかなきやね」と種坂さんは、自分に言い聞かせるように言った。



平成10年度に3万本を製造。現在は、小田原市を中心に県西の2市8町のみ販売だが、新潟や広島などの遠方からの問い合わせも多い。今年はずっと「十郎梅」を使用。価格は1,200円。近いうちに、梅わいん入りテヨコレートも登場する。

絶対  
いいものができる  
と  
信じていました



## 伝統と情熱を、ボトルに詰めて

小田原酒販協同組合事務局長 福田喜代美さん

「さて、何かから話しましょうか」小田原梅わいんを持つて椅子に座ると、福田さんは言った。「私の梅わいんへの思い入れは人一倍ですよ」ちょっと驚いた。事務局長と聞いていたので、どっしりとした人を想像したが、前にいるのは、明るくて、気さくな人だった。

ワイン(Wine) Ⅱぶどうの果汁を発酵させて造る醸造酒。色により赤・白・ロゼに分かれ、性質により、ナチュラル・発泡性・アルコール強化ワインに分かれる。ぶどう酒。

田典 小原日吉大祥巻  
辞書を引くと、こう書いてあった。

しかし、ここで登場するのはぶどうではない。梅である。

この小田原梅わいん、相変わらずの好評で、昨年の発売からずっと売れ続けているのだ。

「小田原梅わいんができたきっかけは、小田原市の農協が、梅の実をビニール袋(つぶして裏ごじにしたもの)にして保存する技術を習得したことからでした。曾我の梅は天下一品ですよ。そこで、この梅を使ってワインを作ろうという意見が出たのです」

梅わいんの製造は、マンズワイン社が請け負った。「最初は少し甘さを感じるが、味を決めるのに苦労したので、農協・工場の方はもちろん市の方も、皆ぞこ情熱を持っていたので、絶対にいい物が出来ると信じていました。目を輝かせて言った」

福田さんが、梅わいんのふたを開けた。あま酸っぱい、完熟果の香りがいっぱいに広がった。青梅をアルコールに漬け込んで抽出する梅酒と違って、梅わいんは、ワインと同じ製法で梅の果汁を発酵させて作る。まさしくワインである。

福田さんは、兵庫県出身。小田原に来るまでは、梅と言えば「紀州梅」だったが、小田原梅の皮の柔らかなさには驚いたという。この伝統の梅を何か新しい形で伝えて、いきたいと感じたそうだ。

「小田原の人は、皆やさしい。周りの人に本当に気を配ってくれる。でも、反面、周りを気にしすぎて飛躍するチャンスを見逃してしまうことも多い。さな気がしますね。ときには思い切つて何か飛び込んでみることも必要じゃないかなって感じでした。梅わいんを眺めながら言った」。

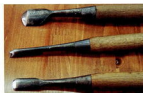
「小田原に行けば梅わいんがあるよ。こんな言葉は聞くことが、今の彼女の夢」。

「小田原梅わいんは原材料も、造る人の思いも、すべてが違うんです。どこの梅ワインと比べても絶対に負けない自信がありますよ」と、福田さんは最後にこう結んだ。

# 木が息づくまち小田原

## 夢に向かって、刀を握る とう

彫刻家 北村憲司さん



この木にも  
メッセージが  
込められるんだよ

## 【彫刻】

「20年前、展覧会用の材料を買うために小田原に来た時、感じたんだよね。自分の夢を実現できる場所はここしかないって」  
北村さんの話が始まった。

北村さんは日展で特選を受賞した経験を持ち、各地で個展を開いている彫刻家だ。日展は、日本の美術界を代表する巨匠や、第一線で意欲的に活躍している芸術家が集う、世界にも類のない総合美術展。ここで入賞することはとても名誉なこととされている。

文化勲章作家の圓舞勝三先生に弟子入りし、彫刻について1から10まで教え込まれた。北村さんが先生の下で修行して体感したことは、彫刻とは、木という素材を通して送られるメッセージであることであった。「この木にも、メッセージを込められるんだ」と、普通なら捨ててしまいたいような木の破材を差し出しながら、北村さんは言った。

現在、日本の情報の発信地はすべて東京。世界のニュースも東京に入る。しかし文化、日本は木の文化。古来から日本人の生活に密着

し、文化を育ててきたのはまさに木であった。小田原は海と山に囲まれ、小田原城周辺や寺や神社などには、今なお自然林が残っている。ここでは、古くから木工が盛んで、漆器や寄木細工、そして木象嵌などは、全国にその名を知らしめている。

「小田原のすごいところは、材料としての木が豊富ということだけではない。木を加工する技術と木を守ろうとする人々、そして伝統、木にまつわるすべてがそろったまちなんだ。このことをもっと知ってもらいたい。ここでは人が人らしく生きている。だから、小田原にはいろいろな可能性があるんだよ」と、熱く語った。

小田原は保守的だ、とよく言われるが、腹を割って話をし、腰を落し着けば、こんなに素晴らしいところははない。北村さんは、北条彫りという技法に取り組みながら、多くの人たちにも彫刻教室を開き、木の持つ温かみを次世代に伝えている。自分の彫刻技術が、少しでもこのまちの友人の役に立てれば、と考えながら、日々彫刻刀を握っているという。小田原では、木の文化を育むためのさまざまな試みも行われている。



「木の文化工房や、小田原の地場産品を、世界に誇れる価値のある商品に高めていく工房文化都市構想など、新しい動きも出始めている。」

今年8月には、若い芸術家が自由に創作活動ができる場所を提供するため、市内本町の国道1号沿いに「おたわら木のアトリエ、モック」がオープン。新しい木の文化の発信と創造が行われている。

「小田原ならではの木の文化を世界に発信すること。夢は大きいよ」と北村さんは言った。





左から、飯沼さん・大津さん・増田さん

この世界は  
理論じゃない  
体でおぼえないと…



## スクラム組んで ただいま修行中

漆職人 大津さん・飯沼さん・増田さん

「漆は生き物であり、気まぐれだ。春夏秋冬その表情が変わる。うまくつきあい、あやつり、自分の感情表現によりその中に命を吹き込むことができないければ、いっばしの職人とはいえない。師匠の大津さんの言葉で二人の愛子の顔に緊張感が走る。

### 【漆塗り】

ここは、久野の大津漆工芸。漆と甘い木の香りで約1ヶ月の細長い仕事場には独特の時間が流れている。

愛弟子とは伝統工芸後継者育成事業に応募した増田理恵さん（浜町）と飯沼孝さん（千代）。二人は小田原の漆塗り職人を目指して

池谷漆芸（中町）と二大津漆工芸で修行奮闘中。全3年間の研修は現在2年目を迎える。小田原漆器は、室町時代に、箱根で入手できる木村を「ろくろ」でひいた挽物細工に漆を塗ったのが始まりと言われている。江戸時代に入ると碗・盆・皿などの生産が盛んになり、他の産地から僧侶を招いて漆塗技法の向上が図られた。これにより小田原漆器の特徴である、本地の木目を生かした擦り漆の技法や、木地・髹塗が発達し、昭和50年5月に通産大臣指定の「伝統的工芸品」に指定されている。

小田原生まれで小田原漆器の二人は漆塗りに対して特別な思いがある。

「祖父が漆職人だったのを最近知ってこの道を選びました。祖父の血・小田原の心を受け継いだということでしょう。漆とは自分の世界への不思議な入口ですね。嬉しいときも悲しいときも、いざ、仕事場に入ると同じ精神状態になって自分に気がつくんです。今はこの道の深さにびびっています」と、まばたきもしないほどの真剣なまなざしで碗の表面にはけを滑らす飯沼さん。

「漆のアメ色が好き。じつと眺めていると、その中に吸い込まれていきます。漆塗りは私の将来そのものです。長年あこがれの仕事でしたが、会社を辞めてまでこの世界に入ってしまった。これが「止念場ですね」と、親がわが子の顔をなでるように布でやさしく碗をぬぐう増田さん。

「まだまだ二人は甘い。この世界は理論でなくて体で覚えないとダメ。今後もしゃつといきますよ。ピシッとな」と大津さん。チームワーク抜群の三人は、今日もスクラム組んで小田原漆器に挑む。





# 心を揺さぶる鼓動と響き

太鼓は、昔から人間が慣れ親しんできたであらう楽器だ。た  
たけは音が出るこの原始的な楽器は、体を震動させるリズム  
を産み、心拍数を高め、打つ者にも聞く者にも全身に振動を  
与え、心を熱くさせる。シンプルな楽器だからこそ、打つ者  
の感情や思いがストレートに表現されるのだ。  
小田原には、そんな太鼓に魅了されている人たちが大勢いる。

## 守り、伝えていく伝統

お祭りの時期、神社の境内などから聞こえる  
笛と太鼓と鈴の音に、心が浮き立ったと思  
い出はないだろうか。小田原囃子は、そんな親  
しみのある懐かしい響きである。

このお囃子は江戸時代中期に生まれた祭囃  
子で、250年ほどの歴史を誇っている。こ  
れは地域に広まり、神社のお祭りだけでなく  
道祖神のお祭りにも使われた。今でも小田原  
囃子と同流と思われ、お囃子を、神奈川県  
のそここしで聞くことができる。市内西  
部も、その土地の特徴がもたらした多彩なお囃子  
がそれぞれの地区に伝わっていて、いろいろ  
な違いがある。曲も曲の地域と曲の地域  
があり、「はやし」のように「神田丸」か  
まくら(地区)によって「こに」「馬鹿はやし」  
が入る「しちょうめ」などと呼ばれるそれぞ  
れの曲も、呼び  
方や漢字の表記、  
打ち方などが異  
なるのだ。



鈴木良平さん

「今でも太鼓  
の音が聞こえて  
くると、腹に響

いてわくわくするねえ」と語るのは、小田原  
囃子多古保存会会長の鈴木良平さんだ。多古  
地区(囃町)では、白山神社に伝わるお囃子  
を地元の子供たちに週一回教え、組織的に保  
存しようとしている。楽譜は特になく、昔は  
口伝で教えられたのだが、今の子供たちが  
覚えやすいようにと譜面をおし、練習に励  
んでいる。

7歳のころから太鼓をはじめ、お囃子がな  
い生活などさっさと想像できない鈴木さんの最  
大の関心事は、そのルーツだという。

「江戸時代のころ、寺町(囃町)一丁目付近  
に「桐座」という芝居小屋があったぞうで、  
関西から箱根を越えてやってきた芸人が、こ  
こで芸を披露して成功しなければ江戸へ上れ  
なかったというほど権威があったとか。小田  
原囃子は、当時「桐座」に出演していた江戸  
歌舞伎の囃子方から、お囃子の好きな村の若  
い衆が習いはじめたのが始まりだと言われ  
ています。

それから小田原囃子は、今の東京都葛飾区  
あたりで発祥した「葛西囃子」の系統だと言  
われています。葛西に実際に行くと、お宮の

今でも太鼓の音が  
聞こえてくると  
わくわくする

周りの人に聞くなど  
して、どのくらい似て  
いるのか確かめてみたい  
も思っています」

昭和44年には神奈川県無形  
民俗文化財に指定され、昭和55年  
にはかながわ民俗芸能50選に選ばれ  
ている小田原囃子。曲を繰り返して練習  
している音色を追求し、五線譜では表せ  
ない微妙な音程を伝え、後世に残すために  
奮闘し、この伝統を未来に託す。



# 【小田原囃子】

## 創造と、未知の世界への挑戦

太鼓という楽器は奥が深い。打楽器全般に言えることだが、たたけばたれにでも音が出せるだけに、いい音を出すことが非常に難しい。じっくり太鼓を聞いていると、たたくときの力加減やたたく場所で、こんなにも音が違うものかということが分かる。音に打ち鳴らされる太鼓の迫力は、体の内も外もしび



太鼓奏者・林英哲さんに作曲をお願いし、たたき手を市民から公募したのが始まりである。以来、市のイベントやあちこちのお祭りなどでその勇姿を披露しているの、その演奏を目の当たりにしたことがある人も多いことだろう。

現在小田原北條太鼓の会長をしている武尾 幹さんは、実は地元町内でお囃子も教えている、根っからの太鼓好きだ。

「お囃子も北條太鼓も好きだよ。お囃子は、曲が6つしかないけど太鼓以外に笛や鉦があつて楽しいし、北條太鼓は決まった曲しか演奏できないってことはないから、失敗も多いけどいろいろな挑戦できるし。お囃子のゆっくりしたテンポはいいななんて思うときもあるし、やっぱりどっちが好きななんて比べられないね。」

れるような感覚だ。

小田原北條太鼓は、大小さまざまな太鼓を並べて演奏する、いわば太鼓だけのオーケストラ。平成2年の市政50周年を記念して行われた「ときめき小田原まつり」のときに、相

武尾 幹さん

失敗も多いけど  
いろいろと  
挑戦できる

かなんて比べられないね。」

太鼓は、上手にたたけるようになるまでにとても時間がかかる。かつこいと思つて始めても、なかなか思いどおりにいかないので、やめてしまう人も多いのだそう。しかし、ある程度上達すると、たたくのが楽しくてたまらないのだという。

現在、試行錯誤を繰り返しながら練習を重ね、順調にレパートリーを増やしている北條太鼓。彼らの挑戦はまだまだ続く。

【北條太鼓】



## 地球の裏側からのメッセージ

拝啓 親愛なるおたわらの人達へ  
小田原大好きな私は、大きな夢を持ちつづけ、さまざまな活動をしていきます。  
追伸 21世紀もあなたにとって幸せな年でありますように。



### ●カナダ・バンクーバーから ホット・ドッグ



小澤文洋さん

上智校出身 プリティッシュ・  
コロンビア大学大学院在学(カナダ・バンクーバー)

ロフソン通りは、高級ブティックが軒を列ねるバンクーバーの目抜き通りである。ここ、一見ミスマッチのように投界に余情なく

入ってくるのは何人かのホームレスの姿である。中には、年齢20歳そこそこかと思われる若者ばかりだが、どれも振り向くような娘が、**「Hungry, Help me!」**(空腹です、お恵みを)という文字を段ボール紙に書いて道にうすくまっている。  
折しも、日本では不景気の状況を顕在化するべく失業率が5パーセントを超えたとか超えないとかのうんぬんが報じられていた。確かに、今の日本は近年稀に見る不況にさらされているのかもしれないが、銀座の三越や和光の店先にこのような人々がうすくまる姿を目にしないという点で、まだまだ物理的にはゆとりがあると言ってもよい。  
しかし、ロフソン通りの貧困のどん底に曝ぐ彼らの中に、人間としての本質的な豊かさ

を見た。その青年は、薄汚れた帽子を前に置いて座り、進行く人から小銭が入られるのを無言のまま待っている。そうして得た小銭をかき集めては、やっとの思いで1日に1本のホットドッグを買うことが彼らの生業である。と、ここまででは他のホームレスと同じである。

ただ、その青年が違っていたのは、ローリーに入った雑種犬を飼っていたことである。そして、あうことか、その犬に自分が買ったばかりのホットドッグを半分さきぎって与えていたのである。自分がその日食べることもおぼつかない状況下でとりかわされたその行為に対し、私は尊敬の念とともに感動を覚えた。思いつきで著書『散文詩の中で描いた衣食住』というのである。そして、私も抱しを得たような気がしたのである。

私は、現在、ローリー財団の非学生として、プリティッシュ・コロンビア大学の大学院で言語教育の研究テーマに取り組んでいる。そして、ようやくこの秋の卒業が決まったところである。今、振り返るに、今回の留学に際し、確かに迷わなかった。約8年間、高校で英語を教えてきて、そのまま安定した職業に従事して妻子を養って行くことも正当な生き方だと



緑に囲まれたプリティッシュ・コロンビア大学図書館

思い、ふと、いい歳をして留学生なんてやっぱりやめてしまおうかとも思った。  
日本的な基準からすれば、30歳を過ぎてきた学生にもっともなっていないと思われても仕方がない。しかし、こちらのキャンパスでは30歳はおろか、40、50歳の人とも机を並べて議論を聞かせるのが自然なこととして行われている。学問の世界に年齢は関係ないのである。いや、学問の世界だけではない。この国では就職の際の履歴書に年齢項目はない。人物本位、実力主義が当然のこととまかり通る。そうした環境の中で生きて経験できたことは、学問的にも人間的にも現実を正しく見極める力の獲得に一歩近づけたと言ってもいいかもしれない。今回得た半分のホットドッグは自分自身のために、そしてもう半分は社会の中の何かに貢献するために。

そして、最後には附記しなくてはならない。このバンクーバーの夏は世界で最も美しいといわれており、実際のところであった。しかし、同時に、それは約半年に及び世界で最も長い雨期に裏打ちされた緑の鮮やかさと空の青であることを忘れてはならない。

### ●アフリカ・ガーナから 「Ndinaおはよう」 「Akenawo ありがとう」



上村真代さん

山田出身・平成11年度青年海外  
協力隊の隊員として、アフリカ・ガーナに赴任。

小田原のみなさんこんにちは。私は7月11日に青年海外協力隊・平成11年度第1次隊の理数



## ●オーストラリア、マンリーから ときめき国際学校随行者が新市長に

新市長・ヘイさん  
姉妹都市委員のメンバーとして  
長年小田原との交流に尽力。写真は  
マンリー市での「ときめき国際  
学校」歓迎ディナーにて（左は国際  
ディレクターのデイビッドさん）



「すてきなまち」小田原のみなさんへ。

9月に行われたマンリー市長選挙で新しい市長に選ばれた直後に、小澤市長さんをはじめ、多くの方からお祝いのメッセージをいただき感激いたしました。

小田原のすばらしい友人たちとともに交流事業に参加できたことをたいへん喜んでいきます。

私たち二つの市がともに築き上げたこの緊密な関係は、国際親善と理解において傑出した事例の一つと考えています。

小澤市長さんやときめき国際学校の関係者、さらにはすばらしい小田原市民の皆様とともに、この絆をもっと確固たるものとするために尽力できることは、マン



市民ボランティアとともに

リー市長として大変光栄なことです。

また、この誌面をお借りして、すてきなまち小田原を訪れたマンリー市民を温かく迎えてくださった市民の皆様へ厚く御礼申し上げます。

私自身も、1996年に、ときめき国際学校のマンリー市からの参加学生25人の随行者として、夫・デイビッド（元マンリー市長）とともに小田原を訪れました。両市の中高校生の活発な交流、市民ボランティアの活躍を目の当たりにした喜び、市民と直接ふれあえたホームステイなど、小田原の皆様の温かい笑顔・ご親切は忘れることはできません。いつの日か、もう一度小田原を訪れたいと思っています。

西暦2000年、そしてその先も市長として小田原の皆様をお迎えできるなんてなんとうれしいことでしょう。小田原市民の皆様のご健康、ご多幸、そしてご繁栄をお祈り申し上げます。

とってはつらいものです。ガーナ隊でママは少しうれしかったです。

ガーナで気づけたなければいけない病気はマラリアです。ハマダラ蚊に刺されるとマラリア原虫が血管に入り、治療が遅れると死んでしまいます。虫よけスプレー、蚊取り線香、蚊帳は必需品です。そして毎日予防薬を2種類飲んでいきます。風邪ですら薬をのまない私にとってはつらいものです。ガーナ隊でママ

科教師としてガーナに赴任し、1か月が過ぎましたが、これといってアフリカに來ている感じがしないのがすごく不思議です。

昼間は暑いですが今は雨季なので突然スコールが降ってその後は涼しいというより寒いくらいで、夜もけっこう涼しいです。私がここの実習を遂げて行くボルタ リージョン州もわりと寒いといわれています。ホームステイ先の家は水が出るのですが、バケツ一杯の水で体を洗わなければならない隊員もいるようです。私もそろそろお湯が恋しいです。

現地の EWE 語の訓練が始まりました。Nlha（ン、ハイ、おはよう）、Akpemavo（ア、ク、ヘ、ア、ありがとう）、語学の嫌いな私にとってつらい日々が始まります。市内を歩くときとくさん声をかけられます。「どこへ行くの?」「ホテルへ」習ったばかりのエベ語が通じたと

青年海協隊員  
アブ・アブ・アブ、中華系などは、自分の住居や経歴を話し、他の人のために働きたいと希望。昭和40年の当時は、66国へ20000人から入国して、10年を超えて昭和63年から入国参加し、現在入国がアフリカ、中華系は活発中。



リアにならないで日本に帰る人はいないらしい  
流行しています。

ガーナでは、どこへ行くのもバス。車の渋滞がすく、やたらと時間がかかります。しかも途中で故障することもしばしば。そのうち慣れようではないでしょうか。また長距離バスは

客がいっぱいにならないと出発しないらしいことが分かりました。車中は人がいっぱいでも少し苦しかったです。印象的だったのは私の横に座った体格のいい子供連れのお母さんが前の人と明るく話していたことです。日本ではちょっとぶつかっただけでめいやな顔をすることもあります。でもここでは知り合いでなくても楽しく話したり、車中がすっきりと静かに過ごせる人も人とお話をする人が多くなっています。

9月からは、ソコデ高等技術学校という日本の高校にあたるところで基礎数学と理科を担当します。中学・高校時代に私に教えてくれた英語の先生はなかなか驚くかもしれませんが、もちろん英語で授業をします。

近年ガーナは理科教育に力を入れていて、協力隊員も増えつつありますが、高校にはある程度裕福な生徒しか行くことができず、一般的には学力もレベルまで達していないのが現状です。教員経験がなく、語学力が乏しい私にとってはかなり厳しいですが、楽しい授業ができるよう、努力して、生徒に勉強の楽しさを伝えるたいと思っています。

2年後にはより少しでもなましくなった姿で皆さんにお会いできると思います。



時空を超えて豊かな生活を営んできた小田原人。このかけがえのないふるさとには、恵まれた自然環境と先人たちの知恵と努力のたまもの。だれもが幸せに、未来も幸せに。その願いを込めて小田原市総合計画「ビジョン21おだわら」の重点施策「レインボープロジェクト」のリーディング事業の中から、「環境先進都市の推進」「子育て支援」を今回は紹介します(連載)。

企画政策課 ☎33-1305



# 美しい郷土 未来への願い

## 環境先進都市の推進

私たちは日常生活や産業活動において利便性を追求するあまり、恵まれた環境の恩恵を忘れていました。その結果、自然を破壊したり、環境に負荷を与えたりして、重大な地球環境問題を引き起こしました。その反省から世界的な規模でさまざまな行動が始まっています。

今、私たちは環境先進都市としての自覚をもって身近な小田原市の環境の現状と課題を見つめ直し、環境を優先する社会をつくっていきます。

### 未来エネルギーの導入

環境保全課 ☎33-1481

石油をはじめとする化石燃料の消費は今後ますます高まることが予想され、大気汚染や地球温暖化はさらに深刻な状況にならざるを得ません。これを防ぐためには、生活様式を

見直すことによる省エネルギーを進めるとともに、太陽や風力などの自然エネルギーやこみの焼酎時に出る熱を利用したりリサイクルエネルギーなどを活用することが望まれます。平成11年度は自然エネルギー利用計画を策定し、引き続き施設の設置や普及の方策などについて検討していきます。

### ゼブラプランの推進

自動車の排気ガスは環境に悪い影響を与えています。そこで低公害車の導入を推進することに。また、環境保全意識の高め、環境の改善を図っていくのがゼブラプラン推進事業です。

平成10年には市民・事業者が中心となって小田原市低公害車普及促進会議を設置し、低公害車体験試乗会など市民への啓発活動を行っています。

なお、その成果として平成11年9月現在、市公用で9台、市内全体で70台の低公害車が走っています。

## チャリティー学院祭のご案内

11月7日(日) 10:30~14:30

～模擬店・バザー・介護用品の展示体験～

後援/キックマン株式会社  
協賛/小田原市社会福祉協議会  
社会福祉法人 東洋会

お問い合わせはご遠慮下さい。

学校法人「専修学校」厚生大臣指定校・文部大臣指定校

## 崎村調理師専門学校

小田原市城山2-1-9 ☎0465(34)3377 小田原駅西口より徒歩3分 社会福祉センター南隣



## 葉根淡2階に、隠れ家あり。

洋間(8名まで)・和室(12名まで)の1日2組のおあてなし。パーティー、忘年会等の集まりにもぜひどうぞ。

たとえば、3,500円コースなら

だし巻き玉子、ローストじゃがいもポテトサラダ、つるむらさきとタコのかしら醤油、かぶと柿のなます、ケンピラ、小松菜の胡麻和え、豆腐のスープ、にらまんじゅう、わんごんしんじょうの音楽くずあん、古代米とアガリクス茸の焼きこみ舞舞、お祝い肴、ぬか漬け、黒胡麻豆腐の煎茶

その他2,500円~5,000円までのコース  
がございます。要予約。



お予約先  
お取寄せ先  
葉根淡  
〒246-0207  
栗原1-16-38 ☎24-3027

## 子育て支援

核家族化や都市化の進展によって、地域や世代間のつながりが薄れ、子育ての相談相手もなく孤立し、育児不安をに陥る親が増えています。

また、女性の社会進出が進み、仕事と子育ての両立が求められています。

そこで、出産や育児への不安や負担感を少しでも減らし、子供を安心して生み、子育てを楽しむよう支援します。

それは、子や孫に郷土を大切にするところを引き継ぐ願いからです。

### 子育て支援センター

#### 小田原の子育て支援の拠点です

☎350052

子育て支援センターは、子育てで不安やイライラを感じるお母さんの気持ちをお聞きし、一緒に考えていくところです。お相手は、先輩ママ相談員の子育てアドバイザーです。

同じ立場の人と出会い、交流や情報交換などをしながら自由に過ごせる「子育てひろば」を開いているほか、子育て情報の提供や個別の相談など幅広い活動を行っています。

### 地域育児センター事業

地域のすべての子供たちの成長を、やさしく見守っていきます。

☎児童福祉課 33-4454

市内9圏の保育所などに、その保育機能をいかして、最も身近な子育て支援の場として活動している「地域育児センター」があります。

育児相談、児童・地域・子育て家庭同士の交流事業、一時保育や宿泊保育などの支援メニューがあります。

子育ての心配こともみんなを楽しく遊びながら解決したい。ボランティア活動したいが託児所がない。こんな方は遠慮しないで近隣のセンターをお訪ねください。

### ファミリーサポートセンター く仕事と育児の両立を応援します

☎350053

と育児の両立、悩んでいる人にとって、大さな助けです。

市内で初めてのオンラインしたファミリーサポートセンターは、そんなお父さん

ん・お母さんが仕事と育児を両立し、安心して働くことができるよう地域（市内）が互いに助け合っていくことを目指します。お子さんを預けたい人と、預かる人をもって組織をつくり、その会員相互による育児援助の有償ボランティア活動を行います。

10月1日現在支援会員98人

依頼会員92人

まだまだ募集中！お気軽に。



## ソーラー発電設置台数 No.1 比べてみればやっぱり京セラ

無尽蔵の太陽エネルギーで、ご家庭の電気を自家発電。電気代が浮くだけでなく、余った電気を電力会社に売ることが出来ます。

お支払いは…

- 公的補助制度が利用できます
- 公庫割増融資制度あり
- 京セラソーラーローン

11月14日(日)、現地見学会開催！！

①AM10:30～②PM1:30～右記会場にて

費用は？ランニングコストは？公的補助はどのくらい？など、あなたの疑問に答えます。

(※販売) ご来場の皆様は京セラソーラミック用品プレゼント



環境に優しく！！

京セラソーラー発電システム

株式会社 イチテック ☎0120-57-1109

特・別・寄・稿

# 北原隆太郎

オランダで悟る 禪の心

この夏、31年ぶりに西欧に旅した。18日間の前半はオランダ、後半はフランスだった。京都に本部のある私どもの『道』F.A.S.協会の第五回欧州大会は、摺心がオランダの片田舎ティルテンベルクのフォーヘレンザン

(鳥の惑禪堂で開かれ、五か国50人の仲間たちと修行一如の修行に励んだ。フランス文学専攻でパリに留学中の長女ルミも参加して扶けてくれた。

禪の心そのものは東西を絶しているが、欧州という新天地で、21世紀をめざして、全人類の歴史創造的な禪が胎動しつつある。こ

れからが見ものである。西洋人でもすでに20年も30年も坐禪に打ちこんでいる人々もいるし、達摩大師そっくりのスウェーデン人もいる。木製の補助坐具を用いる人も多いが、若男女を問わず、皆、姿勢正しく、真剣に坐っておられるのには感動した。

禪堂の建築様式は日本や中国の伝統にはよらず、全く異なる石造で、8基の太い円柱を支えとするアーチ型の天蓋があるが、それでもやはり柱は縦で、床の敷物は横である。人種や民族や若男女の個性的な別は無い。も、だれしも皆、眼は横に、鼻は縦についている。顔の中央に独眼が見開いている化け物などない。禪堂にはスチームもあり、宿舎の一角には大図書館あり、コピー機や何台ものパソコンもあり、地球上のどこかにすぐ連絡したり、講演の要旨のペーパーを何枚でも、50人分でも、あらかじめ用意したりでき、極めて合理的で、禪が如実に、近代の科学技術を駆使する主体となっている点、学ぶべきものを見えた。無形無相、一活流地な根源の主体と、一をも守らず、環境や時代に即応して自在に転換しうる、大機大用といったテーマにとつて示唆的であった。

1929年 世田谷時代の家族写真  
母菊子(上)・父白秋(左)・赫童子(中央)と稚子



北原隆太郎 (77歳)

北原白秋・菊子の長男として小田原で生まれる。「揺籠のうた」など、白秋童謡を子守歌として育つ。現在は鎌倉在住。

(注1) FAS協会  
1944年、久松義一創立の京大文学部が発展した団体。  
FASは深さと広さと長さを示す記号。

(注2) 折心  
あきら—空想—、不断に量度をかたず坐禅すること。

(注3) 活況深地  
魚がはねるようにさわめて勢いのよいさま。

(注4) 大機大用  
大きな能力と大きな作用。

(注5) 結語時  
絶望の時。葉の甲で左右それぞれの反対側のもとを押しあさる形の振り方。

ランポボは自らのこの故郷にも反逆し、置換シヤルルヴィルは豊かな水の里であった。ランポボは自らこの故郷にも反逆し、置換

### あこがれの北フランスへ

北フランスでは、アルチュール・ランボオ（1854-1918）の故郷を三日間にわたって探訪した。私の10歳の時、父が吉田一穂とたちど創刊した『新詩』の第二輯がランポボ特集で、以来、久しく憧れてきた。冠第2ランポボの生地にも、67年目ついに至り得て、まさに喜寿となった。

### ふとよきる 小田原への思い

宿舎での夜明けにチッチという雀の啼りとポー、ポーという鳩の啼き声で目覚めた瞬間、えもいえぬ至福の悦びに満たされた。  
父白秋が小田原に移つてすぐの詩「野突に鳩」では、「おお、ほろろん、ほろろん、ほろろん」と、白い鳩の啼き声が反復された。雀に至つては、父とは切つても切れない縁がある。詩文集『雀の生活』の生活体験は葛飾時代が主ではあつても、実際に執筆したのは天神山の伝燈寺の一隅に間借りしていたころだから、小田原の雀も大いに関与しているよ。

### 小田原と白秋と私

さて岩波版『白秋全集』全40巻中、小田原時代8年間の、各分野での大量の作品群の占める比重は非常に大きい。小田原の山や丘や街や海を見て、白秋が見たのと同じ風景を、人々に作品と共に想像していただければありがたい。

オランダでは、サイクリング専用道路が四通八達し、多くの人が銀輪を走らせていた。険しく狭い谷地の入り組んだ鎌倉でさえ、駅の端に貸自転車設備があり、大いに利用されている。もしまだ小田原駅の周辺にその施設がなければ、ぜひ設置されたい。「いこいの森」の奥までも自転車で行つてみたい。

関東大震災で一日崩れた本之尾道は狭い山道だったが、今では舗装されて、裏駅の方からバスまで走っている。辻村植物公園ができ、私には新聞で知つてすぐ出かけた。父の



詩集「水尾集」の世界が果たしてそこに現成していた。北東の丘では、イングランド南部のストーン・ヘンジのような風光に接し、海まで見えて爽やかだった。水之尾道は歌集「風隠集」などにも度々出てくるし、私も3歳児のころ、父とともによく散歩したもので懐かしい。当時、隣線で電柱がブーン唸っていた。最後は、私の母菊子が「アララギ派の歌人だった」とする、呆れた誤伝は解された。改訂にも憚らなくてこそ、小田原の心である。

### 山行けば

照りつづ涼しと青半端の  
淡き胞子より夏より半端の  
（水之尾の初夏）『風隠集』より



1920年 木尾（みみずく）の寓（小田原伝燈寺境内）と白秋（右）と当時の妻幸子（中央）と鈴木三重吉



1934年 小田原山荘（裏の伊豆山）前にて、父白秋と私

白秋童謡館  
開館一周年記念  
特別展  
11月14日(日)まで  
小田原文学館  
童謡の数々と白秋の生涯を  
たどろう。 ☎22-9881



9月21日未明、突如として台湾を襲ったマグニチュード7.7の大地震は、最悪のものとなりました。震源地一帯の家屋は軒並み倒壊し、「まるで座敷のよう」と新聞などで報道されました。8月には、トルコ西部でも大地震があったばかり。あらためて、地震のもたらす恐怖と、災害に対する備えの大切さが再認識されました。

日本においては、先の阪神・淡路大震災の後、地震に対する危機意識はかなり高まったと思われていますが、時間の経過によって防災意識は薄れつつあると心配する声も聞こえ始めています。ここで、もう一度、防災について思い返してみるとき来てくるのかも知れません。

## 横行する違法建築

9月の台湾の大地震では、一つの大きな問題がクローズアップされました。それは、震度4と、さほど大きな揺れではなかった台北市内のホテルやビルが倒壊し、被害をここまで大きなものにしてしまったことです。専門家は、口をそろえて「手抜き工事」を問題にし、工事のずさんさを指摘しました。経費を押しさるために鉄筋を束ねる間隔を長くしたり、工期の短縮のために急いでコンクリートを流し込み、気泡が生じて、空洞になってしまっているビルの例もあると伝えられました。

実は、台湾にも日本とさほど変わらない程度の耐震基準が定められているのですが、経済発展によるビルの建設ラッシュの陰で、建築申請どおりに建てられていない、いわゆる違法建築が横行してしまつた経緯があるようでした。

## 「備えのための備え」として

では、日本ではどうでしょうか。日本においても、阪神・淡路大震災の際には、1981年の新耐震基準以前に建てられたと見られる建物や、建築基準法に反する建物が倒壊し、多くの犠牲者を出してしまいました。一般的に、大規模な地震災害などの場合、救援が完全に行き着くまでには3日かかると言われており、それまでの水・食料などを確保することが大切です。しかし、地震の発生時に建物が倒壊してしまつては、対策を講じる余裕もありません。

備えのための備え、つまり、まず自分の身を置く環境が安全なものであるかどうかをもう一度見直すことが、今、求められているのではないのでしょうか。これらの地震は、私たちに、教訓としてこう問いかけているような気がしてなりません。

# 大震災が残した教訓

～建築基準法改正～



## 国内の現状

日本の建築基準法では、いかなる建物も建てた場合にも、工事が完了したときは建築主事に申請しなければなりません。この場合の建築主事とは市役所と考えればよいでしょう。申請を受けた市は、その建物に対して「完了検査」を行います。この検査に合格していない木造3階建て以上、もしくはデパート、店舗、ホテル、病院などの建物は、法的に使用してはならないことになっています。(7条の6)

2階建て以下の木造一般住宅は、基本的には除かれています。

しかし、現実には、それらの建物であっても検査を受けていないものがあるのも事実です。

市としても、建築業者や建築主、設計者などへの指導に努めています。なかなか認識が薄いのが現実です。

## 新しく導入される中間検査

小田原市では、今年12月から、建物の安全性を確保するため、中間検査制度を導入しま

す。これは、建築基準法の改正を受けて行われるもので、工事が完了してからではなく、ホテルや木造3階建てなど、市が指定した建物については、工事の途中の段階でも検査を義務化するものです。この中間検査を受けなければ、次の工事の工程に進むことができません。

台湾大地震では、倒壊したビルの壁の中にサラダオイルの空き缶が埋められていたり、柱に発泡スチロールが詰まっていたりなどという信じがたいニュースが伝えられました。日本では、これまでの例はありませんが、この中間検査制度の導入によって、違法建築の防止に効果上がることが期待されています。

また、日本の場合は、一定規模以上の工事を行う際には、工事監督者を置き、工事が設計図のとおりに行われているか確認することが義務づけられています。これによって費用的な負担も増えることとなりますが、信頼できる専門家に、大切な建物のチェックをしてもらうことは、とても大切なことなのです。

私たちは、何かをするときに、他人に任せるところに慣れてしまっているのではないのでしょうか。いざというとき、自分の身を守るのは自分しかありません。家を建てる際にも、このような知識をみんなが持つこと。この積み重ねが、災害に強いまちを作っていくのでしょ

## 「表紙の言葉」

戴帽式。最も軽く、最も重いナースキャップを授かった瞬間に、意欲と責任で心から涙する者も多いという。そして、ろうそくの炎とともにナイチンゲールに誓う。

看護は、与えて、また受けとるもの看護は、支えて、支えられるもの

看護をめざし戴帽式に臨む者に受け継がれる心だという。小田原のまちが守られ、また変わっていく。しかし、小田原にはいつの世にも受け継がれる「ここさ」がある。表紙の写真は小田原高等看護専門学校長の松島直子さん

# おやじの 背中

昭和20年代、小田原では連日のようにブリの大漁に沸き返っていた。

小田原の海岸線は、単調な地形ではあるが海が急に深くなり、陸岸に沿って回遊する魚群が海岸近くまで接近するため、ブリの定置網を張り立てるには絶好の場所であった。小田原の定置網漁は全国にその名をさせていたのである。

当時、父とともに小さな漁船に乗り込み、その漁の様子を写真に残した一人の新米カメラマンがいた。

## ブリ漁獲量の変化

昭和26～30年	1,615,403本
昭和41～45年	103,357本
平成6～10年	5,170本

西瀬6漁場合計

(真鶴、若江、米神、小八幡、五ツ浦、大磯)

新米カメラマンとは、現在本町で写真館を営む五十嵐史郎さん(88歳)。「撮影当日もブリが大漁になることは分かりきってはいたが、海に出る朝は緊張しました」

小田原に住んでいる者ならだれもがブリが獲れることは分かっていた。黒潮節の相模湾小田原沖では、そのころ毎日3～5万本のブリが水揚げされていたのである。当時の漁師の女房たちは、毎日決まった時刻に浜辺で漁船の帰りを待っていた。そして、海の男たちは当然のごとく大漁旗をなびかせ、誇らしげに大きな汽笛を鳴らし、海からの帰りを知らせるのが日課だったのである。

今でも史郎さんは、写真を撮ったときのことを鮮明に覚えていると言う。「ブリが網の中でバシャバシャ跳ねて、海一面がしぶきで真っ白に見えるほど、そりやもうすてい勢いさ。波にまかせて、舟がちょうど波の頂点に昇った時、上から見下ろすようにシャッターを切ったんだ。網を手繰る漁師の「エンヤー」の声とブリの美しい勇姿が次々と揚がる中、おやじといっしょに夢中で100枚くらいの写真を撮ったのじゃないかと思うよ」。

史郎さんは小田原の浜に到着したとたん、ほっとした安心感とゆるる船の上で夢中でカメラのピントをあわせていたこともあり、生まれて経験したことのないほどのひどい吐き気に襲われたと言う。「おやじはケロロとしていたけど、私はもう二度と舟には乗るまいと思ったね」。

代々の写真館を継いだ父・登さんの背中を見て育った史郎さん。毎朝、登さんは複数の新聞写真と長い時間らめっこをしていた。「おやじは365日、写真のことだけを考えていた。そして納得がいくまで考え、ていねいな仕事をしていた」と。

しかし、自分と同じ写真の道を歩みだした息子に対して、決して多くのことを、語ろうとしなかった。

そんなおやじがある朝、ぼつりと言った言葉を史郎さんは忘れられないと言う。「史郎、おまえにはどちらの新聞の写真が良いか分かるか。それはなぜだと思う。カメラマンがシャッターを押した瞬間、どのような考えがあったのか、おまえには分かるか」と。答えは結局もらえなかった。でも、いつでもおやじは自分のお手本で神様のような存在だったと史郎さんは語る。

おやじ・登さんの姿を知らなくても、息子・史郎さんの今の姿とダブって見えるのは私だけだろうか。





# ツーデー 親子で参加します!

いよいよ迫ってきました、今話題の城下町小田原ツーデーマーチ。最近では、街角で歩く練習をしている人まで見かけます。人気も上々の様子です。そこで、ツーデーマーチの20キロコースを親子で申し込みをされた島田さんにインタビューしてみました!

「富士山に登りたいんです。去年は7合目で断念しました。そこで、体力づくりもかねてツーデーに申し込みました」と島田さん。ツーデーマーチは、「ツーデー」と略して親しまれているようです。  
「歩くって、いいですよ。小田原の風景が楽しめるし、親子と一緒に参加できる。体力? まだまだ子供には負けませんよ」と話してくれた島田さん。当日は、小学校3年生の忍くんと夢に向けて挑戦します。

まだ間に合うツーデーマーチ!

11月20日(土)・21日(日)、県内で開かれる初めての、全国規模のツーデーマーチ。参加申込書は、市役所、支所、連絡所、マロニエなどに置いてあります。今すぐ申し込みましょう!

健康ウォーク大会推進課  
☎3316622



# 小田原の生きている森 里山の雑木林のしくみを知ろう

豊かな自然に恵まれた小田原。住み慣れてしまうと見過ごしがちなこの大きな財産を、このコーナーで見つめ直します。知らなかった生き物や植物との出会いが楽しみです。

日本自然保護協会 自然観察指導員 常盤 博城山

森のできかたをよまそうま

小田原の丘陵地に行くと、どこにより放置された田や畑を見ることがあります。注意して見てみるとシダや多年性のヨモギ、ススキの草本類、また、これらに加えてハギ、ウツギの灌木類などが生えています。放置されてからの年数によって、その生え方に違いが見られます。

さらに年数が経過すると灌木類の生えていたところは、アカマツやクスギのような日なたを好む陽性植物などが生えて森林をつくります。この森林が成長し高木になると、林内に光が入らないので、シイ、カシ、タブのような日陰で育つ陰性植物の若木が育つて、最後の森林となります。

その後、高木が老木になり、若木と交代して森林がつくられます。このような植物集団の変化を「遷移」といい、最後の森林の状態を「極相林」といいます。放置された田・畑、崖崩れの跡地などがこの「極相林」になるまで、およそ300年かかるといわれています。また、太古から小田原にだれも住んでいなかったものと仮定して、現在の小田原の植生の状態がどのようであるかを示すのが「潜在自然植生」です。

酒匂川を挟んで平野部の住宅地、水田、海岸域にはタブノキ、東・西部丘陵域の50〜150m域にはスタジイ、シラカシ。山地150m以上にはカエデ、コナラなどが鬱蒼とじげる

# 小田原 彩時記

サーカスが  
やってきた!

9月下旬に小田原アリーナに国立ホリシヨイスサーカスがやってきました。「空中ブランコ」「虎のサーカス」など運べ2万7千人が楽しんだことになりました。



久保典子さん(右)

ある公演で、ピエロに手を引かれステーションにあがった久保典子さん(鴨宮。ピエロの強引なリードと5千人の大観客の拍手に押され、思いもよらずパントマイムをやるハメに、しかし、ピエロとの初共演とも思えない息のあつな演

「子供が私を見て寂しがって泣いてるのかと心配していたが、だんだん私も拍手でのおつきやうで」とつぎにスポットライトで会場のスタートに。

実はこの時、千歌ちゃん(4歳)もママの珍演技に大喜びしていたのです。



ママ、ピエロさんとお友達なの?



いこいの森 クヌギの広場

極相林で覆われることが想像されます。その痕跡は市内の杜々林、城址公園の樹叢に見ることができま。

### 里山は日本農耕の支え

日本では、およそ二千年前の弥生時代に稲作農耕が始まっています。稲作農耕が始まってから、人々は一定の場所で生活するようになったのです。

まず、水辺に近い平野部の自然林を伐採し、水田をつくりました。伐採した材木を利用して、住居をはじめ、農耕用具、狩猟用具をつくりました。毎日の炊事、暖房、土嚢つくりに欠かせない燃料なども、集落周辺にある森林を伐採して使用したわけです。

伐採しても田畑に使わなかった平野部、丘陵部の植生は、それぞれの地形、気候条件にあった二次林・雑木林に遷移します。小田原の丘陵地ではクスギ、コナラ、クリなど異種類の混じった広葉樹の雑木林になります。

以来、この雑木林はおよそ20年周期で伐採され、燃料、農・狩猟用具材として利用されています。また、落ち葉を集め腐らせ、肥料として田畑に与えました。そのため、協同で

灌木、下草刈りなど手入れをして、雑木林は維持されています。これが「里山」のはじまりで、かつての日本の農業はこの里山の雑木林によって支えられてきたわけです。

「人と自然の共生」という言葉がありますが、人が使っている森のリズムを維持してきたのが、この「里山」の雑木林なのです。

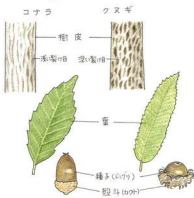
### 生態系に必要な雑木林

昭和40年代以降の経済成長は、農家の営農形態に変化をもたらした。特に化石燃料、化学肥料の普及は農家にとって雑木林の必要性をなくしました。

そのために雑木林は手入れもされず放置され、都市化の進む地域では宅地に転用されています。また、放置された雑木林は元々植生である常緑広葉樹林に遷移するものも見られます。

現在、この雑木林の減少は、全国的な傾向のようです。雑木林は異なる種類の樹木が生育している

### 【雑木林の代表種】



だけでなく、植物、動物、昆虫など多くの生き物が相互に関わり合いながら、生育できる空間です。いわゆる「種の宝庫」なのです。かつて広大な雑木林が、都内の武蔵野にありました。四季折々の雑木林の情景描写は、国木田独歩の「武蔵野」、徳富蘇峰の「自然と人生」はあまりにも有名です。日本人のこころにうろたえおと計り知れない天恵を与えてくれます。

小田原でも美しい雑木林を見ることができま。東部・西部丘陵一帯のミカン園や、いこいの森、畑地に残ったクスギ、コナラ林などは、春の南木、秋の黄葉には見事なものがあります。特有の株立ち、木肌、葉、ドングリの形を観察してみるのもいいでしょう。昆虫をはじめ多くの生き物との出会い、キイチゴ、クワの実摘み、フナギ、キノコ採りなど、子供の最高の遊び場です。

近年、スギ、ヒノキの植林が進んで単相林となり、生態系の単純化が懸念されています。小田原市の総合計画「ビジョン21」のおどわら「里山の整備計画」があげられています。市民と行政が一体となつて、新しい森林

を研究し、さまざまな生き物に配慮したクスギ、コナラの広葉樹林雑木林づくりを進めていく予定です。小田原の豊かな自然、生物多様性の保全の上からもうれしいことです。

**お町本五厘の地酒の生酒ゼミ**

やめられないお菓子たち Vol.4

晩酌代わりにほろ酔い気分

熱帯の珍しい季節、小田原の地酒を味わう。使った生酒入り生酒ゼミ。ほろ酔い気分、ほろ酔い気分が味わえる。生酒ゼミの魅力を味わって、ほんのりほろ酔い気分を味わおう。

米町本店(米町1の16)06  
TEL:22-3020 第三水産会  
アミーおだちが恋も恋

**Odawara Driving School**

私たちは安全行動のとれる初心者運転者の育成に努力しています。

教習科目  
大型・けん引・普通・普通自動二輪

(ローン制度あり)

当田原より徒歩5分  
スクールバスあり

神奈川県公安委員会指定  
**小田原ドライビングスクール**  
蓮正寺540-2 TEL.(36)1215-7

歴史・産業・地場産品・観光を発信

## 東海道五十二次

# シンポジウム小田原宿大会

旧東海道の宿場町の相互の情報交換と交流を深めるために  
滋賀県で開催したシンポジウム。12回目となる今回は小田  
原市で行われます。小田原宿の魅力を堪能してください。

11月20日(土)・21日(日)

観光課 ☎33-1373

### 東海道五十二次

徳川家康が1601年(慶長6年)に五街道に「宿駅・伝馬の制度」を設け、特に江戸と京都、大阪を結ぶ東海道の主要道路として整備しました。全長約500km、健脚の人で14日の日本の大動脈の宿場として公認されたのが東海道五十二次の始まりです。

### 東の横綱 小田原宿

江戸から小田原までの道のりは20里、約80km。日本橋を朝立ち、各宿場へて2日目は9番目の宿場小田原に到着します。東海道沿いの小田原宿の長さは東西2町56間(約2

3km)道幅は5間(約10m)でした。

1803年(享和6年)「小田原宿細細」によると、旅館は81軒で、大名の泊まる本陣4軒、脇本陣4軒、一般旅人の泊まる旅籠は30軒だったといわれ、五十二次の西の横綱宿場に並んで旅籠の横綱にふさわしい宿であったといえます。なお19世紀中には旅館の最盛期には旅館が110軒にもおよびました。



桂 敬助

#### ●記念講演

桂 敬助さん「東海道一宿一席高湯を終えて」

#### ●討論会

五十二次番付表を作った中村静夫さんをゲストに迎えて討論会が行われます。

日時 11月20日(土)

13時30分～15時30分(受付開始12時30分)

場所 市民会館 定員 先着100人

#### ●資料展

小田原宿の資料・東海道各宿の観光インフラット

日時 11月17日(木)～21日(日) 9時～18時

21日(日)は16時まで

場所 市民会館

## 「曾我梅林と富士山」の年賀はがき発売

平成12年用寄附金付お年玉付郵便はがきに小田原の梅林が登場。11月1日より売価55円(郵便局で一斉発売開始)なつかしいお友達に、いなか

の両親に小田原をPRしよう。2月1日から開かれる梅まつりで会う約束をするなんて素敵な年賀状ですね。小田原郵便局 ☎226002

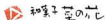


### 用途地域と地区計画の変更案の縦覧

羽根尾土地区画整理事業の進行に伴い、用途地域と地区計画を変更します。詳しくは、広報おだわらいふ11月15日号をご覧ください。

縦覧期間 11月15日(月)～29日(月) 8:30～17:00(土・日・祝を除く)  
場所 市役所都市計画課(6階)  
問 都市計画課 ☎33-1571

## 月かたはつり、月の宴+の



この3カ月、ふりむいてみたら月のこと、栗のこと。お菓子の背景も、同じものをとりあげてきました。自然の流れでなかったのに、月や栗にかまかってしまった、秋の終わりの物語。強火の厚い刺繍で染められた、沖籠籠を脱いだ寅やきが、いい季節になりました。丹後犬納言の吹き上げる湯気もことごとくふくらできました。秋の終わりをお楽しみください。

業の花店主 高橋台一

小田原駅前お城通り ☎0465-23-1567 営業時間/午前10時～午後6時

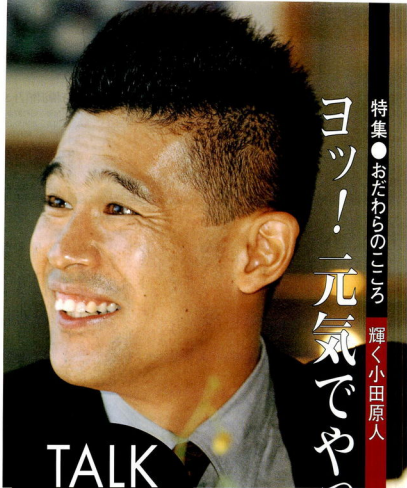


11月 11/3(日)～18(日) 朝日2本線小田原駅南口の11(2F) 10時～12時 朝日2本線小田原駅南口の11(2F) 10時～12時 朝日2本線小田原駅南口の11(2F) 10時～12時





ヨッ！ 元気でやつてるかい



TALK

柳沢慎吾さん  
VS  
小澤良明市長

いつも海で遊んでいました

市長 いつも元気な柳沢さんですが、その元気がどこから湧いてくるんですか。

柳沢 たぶん、母親の影響でしょうね。母はおおらかなので、近所の子供たちがいつも夕飯を食ったり、遊びに来たりしている家でした。自然と、私も一人が好き、「おしゃべりが好き」といった性格になったようです。

「小田原といえば海ですよ」テレビで見ると同じように、いやそれ以上の気さくさで柳沢さんは語り始めた。人なつこい目と、軽快な語り口は周りの者の心を引きつけていく。

市長 子供のころの小田原の思い出という何ですか。  
柳沢 何についても海ですね。山王公民館のわきを抜けると自宅から3分で海です。楽しいときもつらいときも、海に行っていたような気がします。私にとっては、海が遊び場であり、青春であり、ふるさとそのものなんです。

輝く小田原人をお招きする市長対談。今回は、テレビや映画で活躍中の柳沢慎吾さんです。  
市内東町出身の柳沢さんには、小田原・城下町大使としてその知名度を生かし、小田原のPRに一役買っていただいています。とくに、小田原の海には特別の思い入れがあるようです。  
同年代へのメッセージへと広がっていきます。

# 小田原出身、自慢です。

## 柳沢慎吾さん

俳優。昭和37年3月生まれ、小田原市東町出身。市内の山王小学校、白鷺中学校に通学する。昭和55年芸能界入り。20歳のとき、現プロダクション社長と会社を興し、現在に至る。「ふそぞいの林檎たち」(TBS)、「元探偵団」(NHK)、「薄化粧」(五社英雄監督)「紅をつかむ男」(山田洋次監督)など、テレビ、映画に多数出演。ヒロ・プロダクション所属。平成6年、小田原・城下町大使に就任。



市長 出演されている番組を拜見しますと、海のことをよく話されていますね。

柳沢 私は、青春ドラマにあこがれて俳優になったんです。そのドラマにはいつも海が映っていましたから、主人公と海のそばに住む自分を重ね合わせていました。海のきれいな小田原に生まれていなかったら、俳優にはならなかったかもしれません。

市長 今、東京に住んでいらっしゃいますが、東京から近い小田原はどんな印象ですか。

柳沢 近いんですよね。車で、新幹線でも40・50分で来られますから。都内でも、渋滞に巻き込まれたり、電車を乗り換えたりしていらっしゃるうちに、小一時間かかってしまいます。都心からこんな近いのに、東京とは独立した文化を持っているまらちです。

柳沢さんは、シナリオライターの山田太一さんと俳優の阿藤海さんと、小田原が縁で交流を深めているという。

市長 柳沢さんには小田原・城下町大使として、芸能界で小田原をPRしていただいています。柳沢 芸能界に入って驚いたことなのですが、俳優には小田原ファンは実に多いんです。海がよい、人も気候も暖かい、小田原に住みたいんだというんです。先日、目黒ウッチャンナンチャンの南原くんとかヤイインの天野くんが、小田原の海を見たいというので、実家

に招いて3人で3時間ほどホーッと小田原の海を眺めています。

市長 住み慣れてしまうと、忘れがちになりますが、小田原は、海岸線が長く、浜、磯、漁港と表情豊かな、さまざまな海があります。柳沢 最近、私の企画で、ある番組を小田原の海を舞台に撮影したんです。ホント絵になります。小田原の海は、

市長 それはうれしい話です。柳沢 あまりにも多くの芸能人から、小田原



協力：スハウサ小田原

のことを聞かれるものですから、いつしか小田原出身であることが私の自慢になってしまいました。

## おだわらのごころ



市長 小田原は、海あり、山あり、川あり。産業も一次産業から三次産業までバランスよくそろっています。小学校の教科書に載るようなまちなんです。いわば、地方都市の典型、日本の縮図ともいえるかもしれません。

柳沢 全国どこへ行っても、小田原を知らない人はいないですよ。知名度は抜群です。市長 高度成長長期の波に乗り遅れたところもありますが、逆の言い方をすれば乱開発を逃れ、荒らされなかった分、小田原らしさといった良い面が程良く残っているまらちだと思います。

柳沢 市長さんは、小田原をこれからどんなまちにされようとお考えですか。市長 観光行政を柱の一つにしています。これは単なる観光だけではなく、小田原を中心にたくさんの人々が交流するまらちづくりを目指しているんです。

これから着手する小田原市民の夢「小田原駅東西自由連絡通路」の建設も、その起爆剤になると思っています。

現在、都内のマンションにお住まいの柳沢さん。近所つきあいが希薄になりがちな東京の生活が長くなり、温かかった小田原が懐かしいようだ。

柳沢 若いころ俳優を志し、東京にあこがれて上京しました。今、40歳を前にして、海がきれいで、人情味あふれる、穏やかな小田原に戻りたいと思うようになってるんです。

小澤良明市長



**<慎吾ちゃん情報>**  
10月15日(金)スタート(全10回)  
TBS「美しい人」22:00~  
レギュラー出演

**サイン入り色紙プレゼント!**

柳沢慎吾さんのサイン入り色紙を抽選で10名様にプレゼント!  
応募方法はがき、住所、氏名、年齢、電話番号、今回の広報おだわらでもおもしろかった記事を記入の上、「サイン入り色紙希望」と書いて郵送

〒250-8555小田原市役所広報広聴室  
☎33-1261

●応募締め切り●11月30日(火) (消印有効)

**みんな! 元気出せ!**



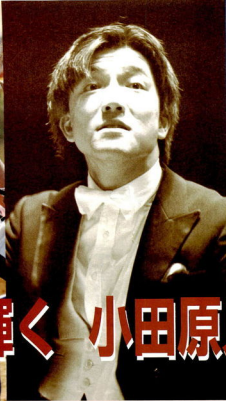
市長 人々が交流するまちづくりに、ハード面の整備も必要ですが、実は外からのお客様をもてなすことが最も大切になるだろうと考えています。柳沢さんのような人を引きつけるサービス精神旺盛な方は、これからのま

小田原のまちが発展することを望むと同時に、子供のころの記憶にある温かい小田原でいて欲しいとも願っているんです。ぜひたくさんお願いでしょか。  
市長 小田原の街並みも刻々と変化しています。最近では、国道1号の電線類が地中化され、とても美しい景観になりました。といって、私は小田原をミニ東京のようなまちにしようとは考えていません。この地には伝統と歴史の上に培われた小田原文化というものがあります。そこに、人々が交流し、新しい文化が生まれることで、街並み、人情、風情といった「おだわらのこころ」を守り、育てていきたいと思っています。  
柳沢 「おだわらのこころ」ですか、いい響きですね。ぜひ大切にして欲しいと思います。

ちづくりに欠かせないキャラクターです。  
柳沢 芸能界に入ったころ、先輩から「あいさつだけは欠かすな」「元気を出していつも笑顔でいろ」と教えられました。  
単純なことですけど、市長さんがおっしゃる「もてなす心」とは、そういうことかもしれませんね。  
市長 その笑顔の影には、人知れず、ご苦労があったと思います。  
柳沢 芸能界は厳しいところですよ。もうだめだと思ったところは一度や二度ではありませんが、そんなとき、車を走らせ、西湘バイパスのり、緩やかに曲線を描く海岸線が見えてくる、小田原に帰ってきたとしみじみと感じたものです。ひとしきり、海を眺めていると、不思議とまた元気が出てきて、もう少しだけがんばってみようかと。その繰り返しの20年だったような気がします。  
市長 芸能界もそうでしょうが、これからのまちづくりも、柳沢さんくらいの年代の人が中心になって、がんばってみたいと思うんです。  
柳沢 同年代の人にはとくにエールを送りたいですね。いつも夢をもってがんばって欲しい。  
「夢」という言葉を発したとき、それまで笑顔の絶えなかった柳沢さんの表情が、瞬間真顔のままなされたんです。いつもおどけているようで、実は厳しい芸能界を生き抜いてきた中で、「夢」を持ち続ける大切さを実感しているのだらう。  
柳沢 30歳代後半くらいから、妙に訳知りぶって老け込む人もいますよね。でもそんな年じゃないはずですよ。いつも何かに燃えていたんです。それが何であっていい。「夢」を持ち続けて欲しい。



市長 柳沢さんが抱き続けている夢は何ですか。柳沢 これは芸能界に入ったところからの夢なんです。最初は、一度でもいいから、「監督・脚本柳沢慎吾」の青春ドラマをつくってみたいですね。汗と涙と友情であふれる青春ドラマです。そのときは、必ず小田原の海を舞台にします。約束しますよ。  
市長 ぜひ実現させてください。楽しみにしています。最後に、小田原市民にメッセージをいたしてください。柳沢 メッセージですか、ではこれでいきたいと思います。  
「元気でな」「いい夢見ろよ」「あはよ」  
最後に決めゼリかと笑顔を残して、柳沢さんは風のように東京に帰って行った。その後ろ姿に、思わずエール。さわやかな対談だった。



# 輝く小田原人

各界で活躍中の小田原人

彼らの熱いメッセージのキーワードは「こころ」

小田原のまちは、彼らに夢と希望とやすらぎを与えた



## 栗田博文さん(指揮者)

## 小田原には感動する チャンスがいっぱい

「オーケストラの指揮は感性がいのち。感性は人が感動するたびに磨かれる。小田原は最高ですね。だって感動するチャンスがこんなにあるまちはほかにはないのだから。海・山・川といった自然も、人やメダカやミカンなどの生き物もすべてが輝いている。小田原あっての今の私です」。世界的に活躍中の天才指揮者のインタビューは始まった。

栗田さんは19歳までの多感な時期を小田原・荻窪で過ごした。その後、第23回東京国際音楽コンクール指揮部門第1位優勝、神奈川フィルハーモニー管弦楽団

をゆさぶって、喜怒哀楽を享受させます。しかし、指揮者は自らが音を出せない。だから、私の仕事は、作品の要求する明確な意図をオーケストラのメンバーに強烈にアピールし、共同作業で音を作り上げることです。そのために信頼関係が重要なことはいままでもありません」と音楽の話では表情が変わる。まさしく頂点を極めたプロの顔だ。

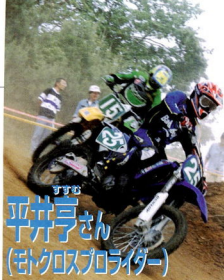
「私にとっての小田原は原点ではなく、あたりまえの場所なんです。帰ってくる」と自然に体が順応している。人は皆、いい意味で城下町としてのプライドが高

く、誇りを持って生活している。同じように東京人もプライドが高いが、東京に比べて小田原の人はおおらかに、そのお陰でストレスも少なくゆったりと時間が流れているのです。身も心もリラックスするような感覚なのでしょうかと。

「初めての漁政から帰国し、ロマンスカーの車窓から夕陽に染まる小田原が見えたとき、なぜかボロディン作曲『ダッタン人の踊り』のメロディーが浮かんだんです。郷愁ですかね」とほほえんだ。



指揮台の上から観客を魅了する栗田さんこのころには、いつも小田原がある。



JTCC  
**平井亨さん**  
(モトクロスプロライダー)

「学校に行って勉強して就職する。たしかにその道もすばらしい。でも、人生の道はひとつじゃない。私はバイクが好きだったので、違う道を進んだ。もし、夢があったら、自分を信じて進むこと。夢は待っているんじゃないですか」

週2回のスポーツジム通いで鍛えあげている体と日焼けした端正な甘いマスク。容姿だけじゃなく、生き方もカッコいい。なるほど彼が、自由自在にバイクを操りオフロードを砂煙をかき上げて

駆け回るレーサーなのだ。

平井さんは国内モトクロス界の貴公子。13歳から始めたモトクロスでぐんぐん頭角を現し、現在は国内でもわずか57人しかいない国内A級250ccクラスのトップレーサーだ。レースは年間10戦。3年前に千葉マリスタジアムで行われた「スーパークロス」でみごと4位入賞。以来数々の大会で好成績を残し、現在はスポンサーが数社集まるプロのレーサー。

生粋の小田原っ子の平井さんは本町在住。「小田原の表情が大好きです。遠征から戻ってくるとレースの疲れを忘れるほどにほっとします。自然が美しいまちは、たくさんありますが、小田原ほどさまざまな表情・景色を持つまちはどこに行ってもない。海が大好きで、トレーニングを兼ねて自転車で海岸線を走り、時には真鶴・湯河原まで行きます」と、厳しい



な表情・景色を持つまちはどこに行ってもない。海が大好きで、トレーニングを兼ねて自転車で海岸線を走り、時には真鶴・湯河原まで行きます」と、厳しい

**夢は必ずかなう。**  
**ただ自分を信じること!**

戦い後の体を小田原はやさしく癒やしてくれるようだ。

「モトクロスの魅力は、やはりジャンプ。だって人間は空を飛べないじゃないですか。一瞬で鳥になれます。バイクは最高の遊びであるとともに私の夢をかえてくれる友達です。目標は必ず世界進出。世界のトップレーサーが出場するアメリカのレースで活躍したい」と、力強い口調で話す平井さんを見るとき、夢が現実味を帯びてく



カ。のレースで活躍したい」と、力強い口調で話す平井さんを見るとき、夢が現実味を帯びてく

**小田原ブランドって知ってる??**

**村越正海さん**  
(フィッシングライター)



高校生の釣り全国大会・フィッシング甲子園決勝戦 バリ島にて大物のロウニンアザ(40kg)を抱える村越さん

「今、釣りは年間300日。2時間余裕があれば、酒匂の家からすぐ竿を担いで酒匂川・米沖・芦ノ湖といった私の庭に釣りに行きます。日焼けした顔から白い歯がこぼれる。」

村越さんは酒匂在住。仕事は、テレビの釣り番組のレギュラー、雑誌への寄稿、テレビゲームのソフト開発、その他釣りに関する企画・編集・監修と多岐にわたる。

「湘南ブランドを知ってるでしょ。サーファーが湘南にあこがれて茅ヶ崎に集まる。同じように小田原は釣り人にとって、自然・気候・交通とすべてにおいて最高の条件を満たすところがこれの地・小田原ブランドなんだ。砂浜・岩場・川と釣り場も豊富で湖も近い。富士山をバックに釣り糸を垂れば、さわやかな風が快い」村越さんはニュージーランドやオーストラリアにも住んでみたいというが、生活の便利さも考えると小田原が最高だという。

「家と学校が川や海岸まで数分という絶

好の場所だったので、小・中学校時代は学校に釣り道具を置いて、朝釣って、授業を受けて、放課後釣ってという、鉛筆より竿を握った学生でしたねえ」と笑う。

「今年、スリランカにテレビの収録に行ったときはまいりました。そこには陸から舟で4時間の沖に水深がいきなり900

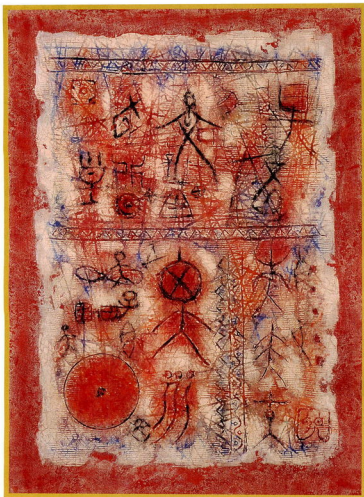


メートルに落ちこる絶好のポイントがあるんです。絶対に超大物が潜むだろうと胸が踊りました。いざ、舟を現地の人に出してもらったら、さあ大変。魚群探知機の故障知らされて、おまけに1時間もたたないうちにガス欠になっちゃったんです。あれだけ事前に綿密な打ち合わせをしても、いつも現地の人は何かしてかしてくる。ミスがあっても「ノープロブレム、ノープロブレム(問題ない)」と笑っているだけなんだから。スタッフ一同がっかり」と、話に熱中するにつれて村越さんの瞳には輝きが増していった。



# 心の色 心の象

かたち



箱根・芦ノ湖畔の成川美術館で、芳澤一夫さんの個展「心の色」の象」が聞かれ、約10万人が芳澤さんの作品に触れた。

会場では作品に多くの観客が見入るように群がり、ためいきもつかない感嘆の声が漏れていた。「ファンタステック」「ビューティフル」など国際色豊かな観客が多く訪れる成川美術館ならではの感激の言葉も飛び交った。芳澤さんの絵

は万国共通、感動を呼ぶのである。あるファンが芳澤さんに「一番好きな作品はどれかを聞いた。『あなた、自分の子供のなかで一番好きな子の名を答えられますか。どれが私にとっては一番大切なのです』と。『心は象があるようでない。それをキャンバス上に色や筆つかりで表現したい』と。絵はテクニクより先にキャンパスの上に感じたままを表現したいと思う心が肝心なんです」と。「小田原には昔からすばらしい人が集まり歴史・伝統を築いてきました。それが文化のまち小田原の魅力なのでしょう。今後ますます人が集い、輝き、小田原から多くの人が羽ばたく。そんなまちなるといってですね。」

芳澤さんは、21世紀も日本画のもつ色と美にこだわり続けて、キャンバスに心を表現していくだろう。

芳澤さんは、いとおしい命を包むように色彩を重ねる。一面には温度があり、鼓動がある。それはまさしく詩的ファンタジーの世界だ。

成川美術館館主 成川賢三さん

かつて浮世絵が印象派に強い影響を与えたように、いつか彼自身も外国のアーティストに強い影響を与える日が来るかもしれない。そんな人とお付き合いいできて、本当に幸せだと思つていきます。

さだまさしさん



NIPPONIA NIPPON 1992年 65.2X53.0  
さだまさしさんのCDジャケットに使われた

## 芳澤一夫

1954年神奈川県生まれ。城山在住。東京セントラル美術館日本画大賞展、上野の森美術館絵画大賞展など数々のコンクールで入選・入賞。ヴァイオリニスト江藤俊雄さん(芸術院会員)、さだまさしさんなど音楽家からの依頼により作品提供。高等学校「国語I・II」の表紙に起用されるなど多方面で活躍。

